

3) 細胞内外液分布バランス

透析時に血圧の下がりやすい人は細胞外の水分量と細胞内の水分量の比率が通常とちがっていて、細胞外の水分量の割合が小さいという報告があります。

細胞外の水分量の割合が小さい人は、透析時に間質（細胞の周りの組織）の水分が血管内に補充される量が十分でなくなるためと考えられます。間質の水分が足りないのはしばらくの間、ドライウェイトの設定が低すぎたなどの理由が予想されます。また、逆もありえるでしょう。

4) 血圧に影響する血中ホルモン等

臓器別には副腎由来、腎臓由来、甲状腺由来、心臓由来が主なものです。

対処可能なものは、薬剤等で管理します。

5) 末梢血管の壁の伸展性

高コレステロール血症や高血圧などによる動脈硬化、透析患者さんの血液のカルシウム、リンが高いことからくる、血管の壁の石灰化などで、血管の伸び縮みが悪くなります。

6) 末梢血管の壁の水分透過性

炎症や手術後などに血管の壁から周囲の組織へ水分がしみ出しやすくなります。

3、「血液透析中の低血圧」

1) 除水に直接起因するもの

血液透析中の血圧は、1回の透析の総除水量、時間除水量、除水速度によって影響されます。低血圧対策としていずれの量、速度とも規定値より小さくするなど調節することがあります。

2) 心血管系の反応

心疾患などによる心拍出量の低下、交感神経の反射が不十分な場合は可能な限り原因に対処します。

4、「おわりに」

透析医の仕事には血液透析中の医学管理と、透析患者さんの自己管理の支援があります。自己管理の支援もなかなか難しく、やはり患者さんのご協力あってこそそのたまものと思います。患者さんと医師のよい関係も、血圧の変動の少ないよい血液透析につながると考えます。

ありがとうございました。